



ニュースで名前が流れることもあり、なんとなく聞き馴染みの出てきたRSウイルス。RSウイルス自体はありふれていて、1歳までに50%、2歳までにほぼ100%のお子さんが感染します。このウイルスに関して、年齢による症状の違い、そして日常での注意点についてお伝えします。



### 6か月未満の子どもは重症化する可能性があります



RSウイルス感染症で最も重要なことは、乳児、特に6か月未満では重症化する可能性があるため注意が必要という点です。RSウイルスは、肺炎や細気管支炎（気管支の細い部分が影響を受け、ゼイゼイの原因になるものです）といった、呼吸に問題を起こすウイルスです。

6ヶ月未満のお子さんに「鼻風邪かな？」という様子から始まって、

- ・肩で大きな呼吸をする
- ・肋骨の下の方をペコペコへこませながら息をする
- ・ミルクの飲みが悪い

といった様子が見られたら、息が苦しいサインです。すぐに医療機関を受診するようにしてください。

### 3歳以上の子どもではほとんど普通の風邪です



RSウイルスは、何回もかかることがあります。年齢が上がるにつれて症状は軽くなっていきます。3歳を超えてくると重症化のリスクも減り、1-2週間で回復する、いわゆる普通の風邪で済むことが多くなります。

### 感染対策のためにアルコール消毒を



RSウイルスの特徴として、感染力が強いということが挙げられます。ドアノブやベビーベットの柵、おもちゃなどについてウイルスが他のウイルスに比べて長時間、感染力を持ったまま残るのです。そのため、感染対策として手を洗うことはもちろん、子どもたちがよく触れるものを消毒することが重要です。アルコール消毒がとても有効です。

上述の通り、RSウイルスは、乳児がかかると重症になる可能性があり、しかも付着した物を触ることで感染してしまうやっかいなウイルスです。小さなお子さんのいるご家庭においては特に注意して、手洗いやよく触るもののアルコール消毒を行ってください。

さらに詳しく聞いてみたい方は、ぜひ小児科オンラインでご相談ください。

新渡戸文化学園の保護者の方は何度でも無料でご利用いただけます。

### 小児科オンラインのご利用はこちらから

▶ LINEの友だち追加

スマホでクリックすると追加できます

PCでご覧の方は「小児科オンライン」とご検索いただくか右のQRコードをスマートフォンでお読み取りください。



会員登録に必要な合言葉

※合言葉はサービス案内チラシにて保護者の方にのみご案内しております